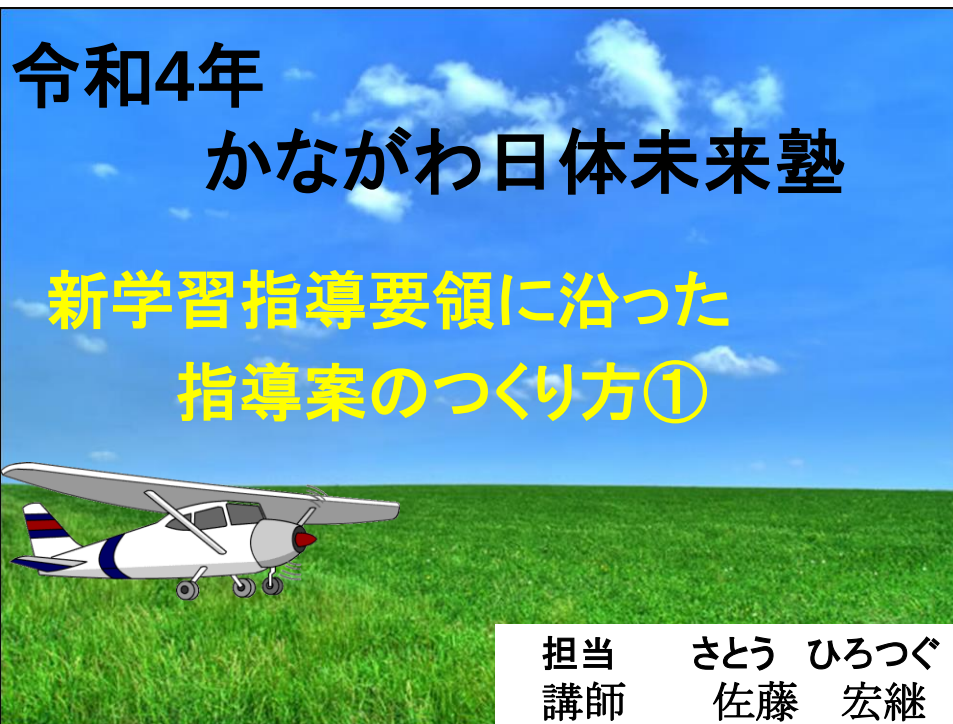
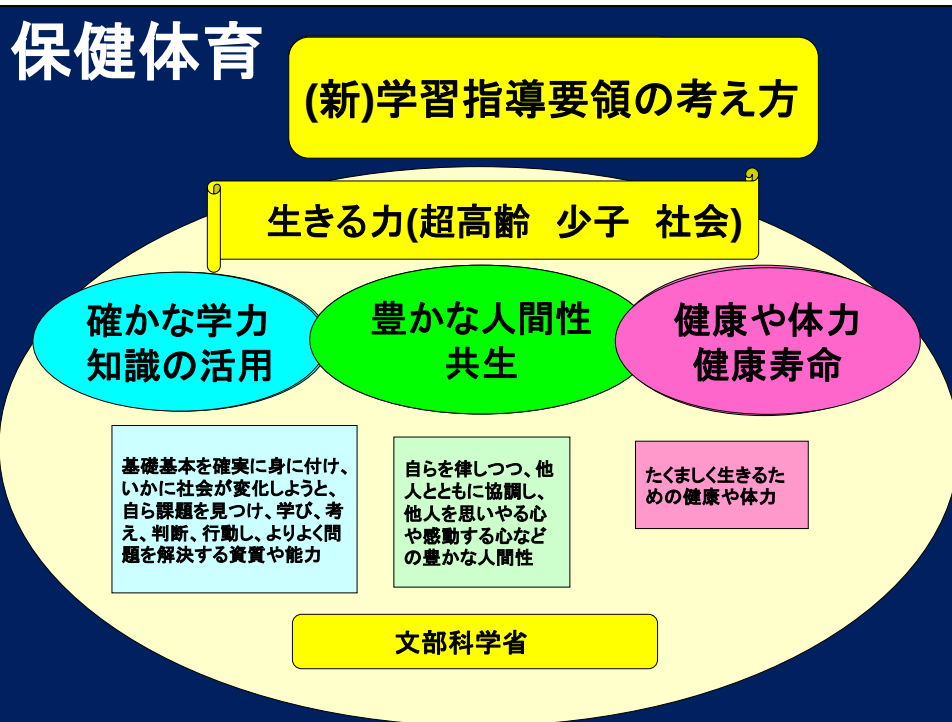
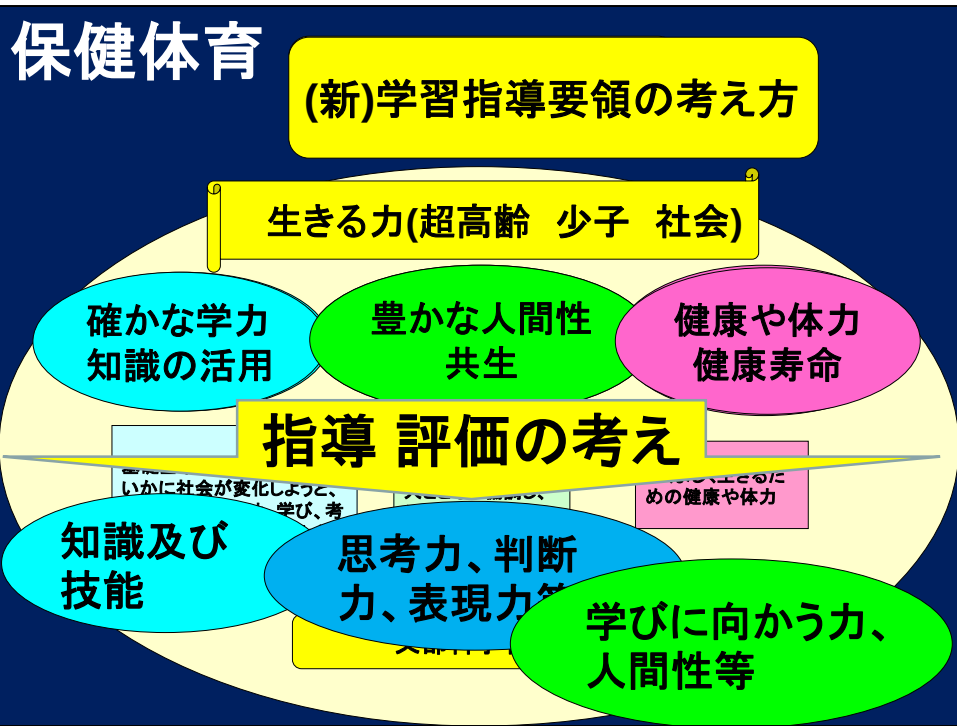




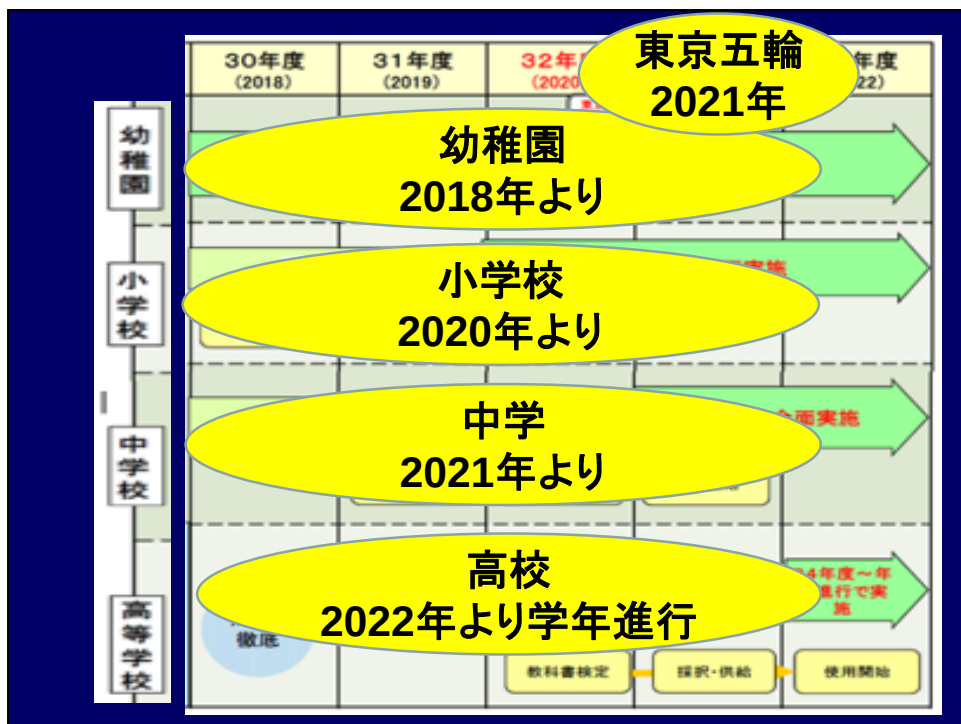
これから教育実習に向けた実技の体育学習の指導案づくりのポイントを説明します。【クリック】



まずは、新学習指導要領の確認です。生きる力の考えは継続され、知識の活用、共生社会、健康寿命への内容が加わりました。併せて指導と評価の観点が変更されました。【クリック】



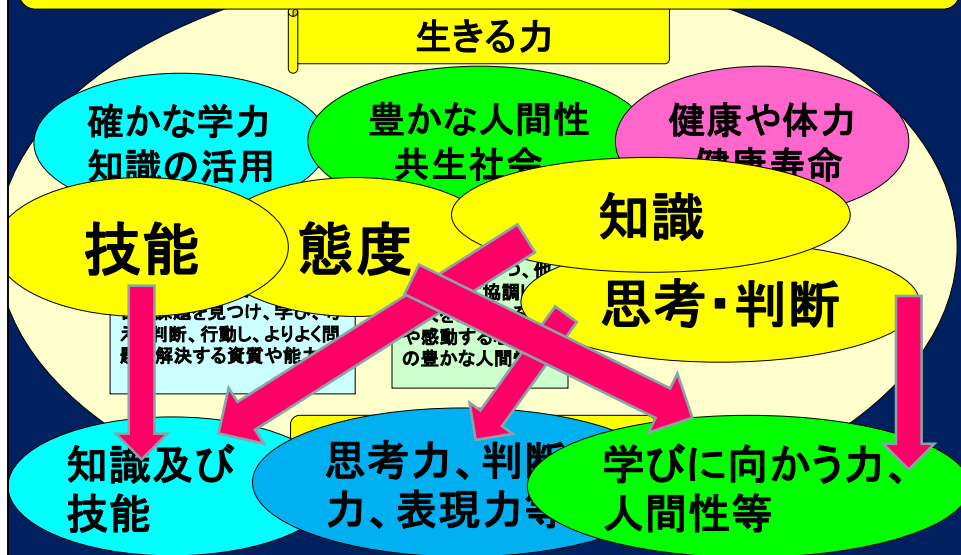
指導と評価の観点¹は体育分野は4観点から3観点に変更され、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等と学びに向かう力、人間性等に変更されました。【クリック】



新学習指導要領は、現在、幼稚園、小学校、中学校で実施されています。高校は、2022年度からは、入学年度生からの学年進行で実施されます。【クリック】

保健体育

(現)と(新)学習指導要領の関係 指導 評価の観点



旧学習指導要領と新学習指導要領の指導と評価の観点ですが、今までの技能、態度、知識、思考・判断の観点が矢印のような関係となっています。【クリック】

2 わかりやすい指導案

求められる授業と指導案

体育学習...運動の特性

評価規準

保健学習...単元のねらい

評価規準

※知識分野(体育理論、保健学習)は
指導案づくり②で解説

次に指導案づくりで覚えてほしいのは、実技の体育学習と知識の体育理論と保健学習の指導案のつくり方の違いです。体育学習は、運動の特性と観点ごとの指導内容の例示を参考にした評価規準を加味して作成します。体育理論や保健学習は、単元のねらいを基にした評価規準を加味しています。【クリック】

求められる授業とは

○生徒の側から見た時 教師の側から見た時

(1) 実態に応じた指導(計画)である。

① 指導(計画)が生徒の実態に即している

(2) 運動する楽しさを味わわせてくれる。

② 運動の特性を理解している。

(3) できなかったことが、できるようになる。

③ 技能指導のポイントを的確に指導できる。

大事なことは、旧学習指導要領でも新学習指導要領でも求められる授業は赤字の内容を教師が理解しているかです。【クリック】

求められる授業とは

(4) 友だちと仲よく協力して取り組み、達成感や成功感が味わえる。

④ 生徒が主体となった学習活動を取り入れている。

(5) 体力が向上し、より健康になる。

⑤ 体力の状況等を踏まえて計画的に指導を行っている。

(6) 生涯を通して、運動するための基礎を培ってくれる。

⑥ 生徒に学習の計画等を立てさせている。

また、授業は生徒主体の授業展開になります。単元計画は教師側が考えますが、授業展開は、生徒の学習状況によって変化しますので、個人やチームなどの課題解決へのアドバイスなどの支援ができるかが求められています。【クリック】

学習指導案作成のポイント

3 計画的・系統的な計画の作成

※単元指導計画の作成

②課題解決型の指導⇒生徒が自己の課題を把握(発見)

「課題解決の方法を考える」

「練習方法を選択する」

「練習方法を工夫する。」

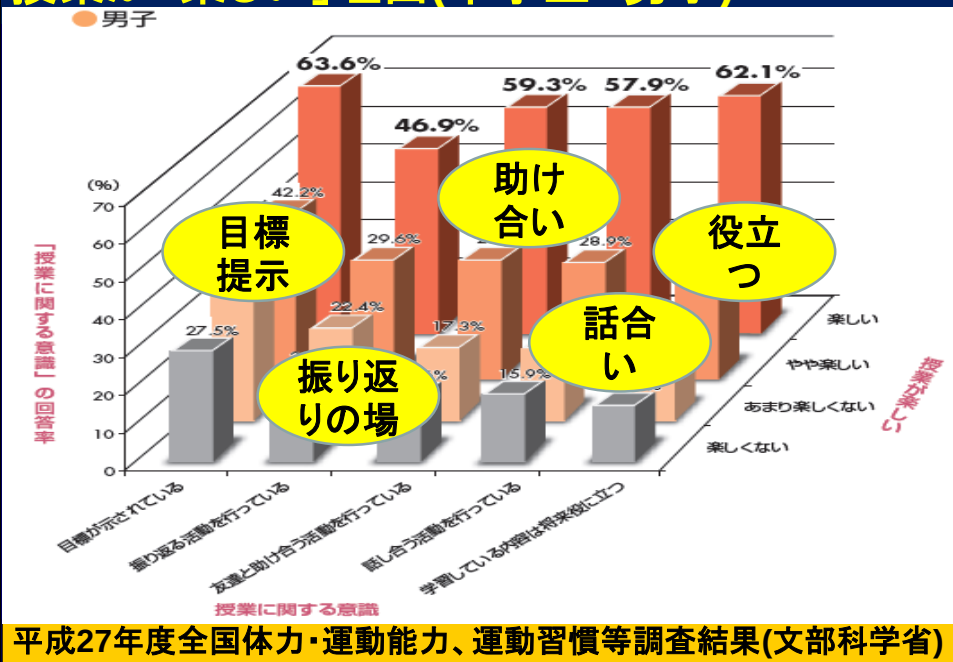
求めら
れている
指導

ダメな授業...教師の指示だけで終わる授業

生徒は指示に従って運動を行うだけ

ダメな授業は、全て教師の指示で終わる授業です。教育実習でよく見られる光景には、ずっとタイムキーパーをしている姿や指示だけで終わる姿です。もっと生徒の中に入ってアドバイスしたり、できばえを評価してあげることが必要です。【クリック】

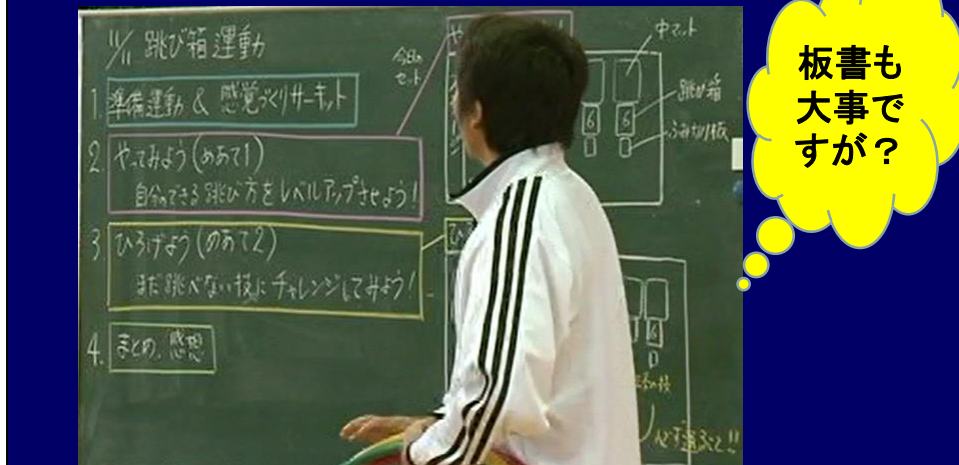
授業が「楽しい」理由(中学生 男子)



求められている授業の背景には、毎年、文部科学省、スポーツ省が実施している「児童・生徒の体力、運動能力調査結果」に示されています。「目標が提示してあるか」「どんなことに役に立つのか」「助け合いの場面がある」「話し合いの場がある」「振り返りの場面がある」が授業の楽しさにつながっているということです。この傾向は、令和の時代も同じです。【クリック】

例：本時の流れを模造紙で作っ
ておくorキーワードを板書。

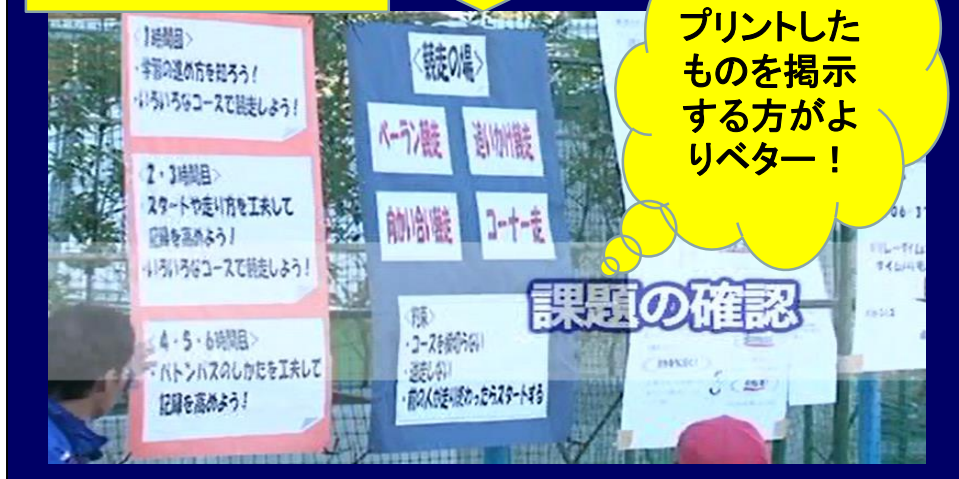
(例)体育館での授業



これは小学校の器械運動の授業ですが、本時の目標や流れが示されています。【クリック】

例：本時の流れを模造紙で作って
おくorキーワードを板書。

(例)グランドでの授業



屋外の授業でも授業のねらいや流れをプリントしたものを掲示しています。小学校の授業では日常ですが、中学、高校ではあまり見られないのが残念です。【クリック】

授業中の指示

・話し合いなど

(例)高校での授業



話し合い活動は、課題の確認や課題解決に向けての活動として活用されるようになってきています。【クリック】

授業後の振り返り

- ・話し合い
- ・学習カード
- ・グループノートなど

(例)小学校での授業



くできばえチェックカードをもとに
アドバイスし合う児童の様子>

「振り返りの場」はどの校種でも見られますし、学習カードの活用も見られるようになっています。【クリック】

領域 (単元)名	○運動領域[体づくり運動、器械運動、陸上競技 水泳、球技、武道、ダンス、体育理論]を記入 (運動種目等を記入) 例: E 球技 ゴール型 バスケットボール
運動の 特性	○機能的特性 ○効果的特性 ○構造的特性 について記入する ※中・高等学校学習指導要領解説を参考に記入
領域 (単元) の目標	※学習指導要領に基づいて記入 (1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等 の順で全て記入 ※観点も () で記入

**領域と指導要領
どおりに書く**

では、実技の体育学習の指導案づくりです。単元名は学習指導要領とおりに領域名と単元名、種目名等を書きます。そして、運動の特性と単元目標も書きます。【クリック】

運動の特性

運動の楽しさに着目して特性が考えられている。

※ 運動の機能的特性

どこに書いてあるの？

(運動の教育): 必要充足 欲求充足
必要充足・・・「(体操)体づくり運動」
欲求充足・・・「スポーツ・・・競争的、克服的、
達成的」「ダンス」

学習指導要領(解説)の領域表示の下の方

運動の特性ですが、機能的特性は、その運動の構成内容や楽しさの心理的内容を示します。それは、学習指導要領解説の領域表示のすぐ下の文に書かれています。
【クリック】

機能的特性 どこに書いてあるの？

E 球技 ※中学 (後期)体育科教育実践法 第1回資料

↓

[第1学年及び第2学年]

↓

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいる。

例えば、中学校のE領域の球技 ゴール型 バスケットボールでは、領域表示のすぐ下の文に「球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され...勝敗を競うごとに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。」と書いてあるところが機能的特性を示しています。【クリック】

運動の特性

- **運動の効果的特性** どこに書いてあるの？

運動の身体に与える影響に着目し考えられている。
- **運動の構造的特性** どこに書いてあるの？

運動の技術的な構造に着目したとらえ方。

**球技領域のみ
指導要領(解説)の〇〇型の下の文**

ない

自分で考える

体力面を書く



効果的特性は、学習指導要領解説には書いてありません。この運動をすると、どんな能力が高まるのかを体力面を中心に自分で考えて書いて下さい。次に、構造的特性ですが、その運動やスポーツの技術的構造を書くのですが、明確に書かれているのは球技領域のみです。技能の説明文の〇〇型の下の文です。【クリック】

ア ゴール型

ゴール型とは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートやトライなどをして、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。ゴール型の学習においては、ゴール型に共通する動きを身に付けることが大切である。

入学年次では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できるようにする。

ゴール型とは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートやトライなどをして、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。

例えば、ゴール型の構造的特性は、「ゴール型とは、...～のゲームである」と書いてあるところす。【クリック】

1 単元名を学習指導要領解説の表記どおりに領域から書いてください。←	
←	C 陸上競技 エ 走り幅跳び
2 運動の特性を書いてください。←	
① 機能的特性←	陸上競技は、「走る」、「跳ぶ」及び「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
←	
←	
←	
←	
② 効果的特性←	陸上競技を行うことで全身持久力や瞬発力が高まる。また、走り幅跳びでは巧緻性や跳躍力が高まる。
←	
←	
←	
←	
③ 構造的特性←	書かなくてもいいです
←	

ですから、球技領域以外の陸上競技の場合などは書かなくても大丈夫ですが、もし書くことが求められた場合は、【クリック】

・運動の構造的 특성 — どこに書いてあるの？

運動の技術的な構造に着目したとらえ方。

球技領域のみ※ — 他領域はないの？

指導要領(解説)の〇〇型の下の文

(例)高校 器械運動 領域表示の下
各運動の解説文

【入学年次】

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

ア マット運動

回転系や巧技系の基本的な技とは、回転系の接転技群、ほん転技群の基本的な技、巧技系の平均立ち技群の基本的な技を示している。

機能的特性を示した文の中に、その運動やスポーツの技術的構造が書いてあります。例えば、高校の器械運動では、「マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、」と書いてあり、それぞれの種目の説明に技術内容が書いてありますので、【クリック】

運動の特性		ない
	どこに書いて	自分で
陸上競技は、「走る」、「跳ぶ」及び「投げる」などの運動で構成され、短距離走やリレー、長距離走、走り高跳び、走り幅跳びの各種目がある。		
運動の技術的な構造に着目したとらえ方。		
球技領域のみ※ 指導要領(解説)の〇〇型の下の方		

陸上競技を例にすれば、機能的特性の前半の運動の技術的内容を書いて、後半に、その単元で行う種目名を書いて、「～の種目がある」とすればいいです。【クリック】

2 体育学習の指導案(単元目標)

保健体育科 (体育 運動に関する領域)	
学習指導要領	
【単元計画】	
1 単元名	<u>単元名について</u> ● 「領域」「型」を記載します。
2 対象	年 組
3 期間	平成 年 月
4 場所	
5 単元の目標	
(1)	<u>単元の目標について</u> 学習指導要領(解説)の□で囲まれた中の文章の語尾を変えて単元目標にします。 注) 当該年次で扱わないものは()でくくります。

学習指導要領(解説)の

- 1 知識及び技能
- 2 思考力、判断力、表現力等
- 3 学びに向かう力、人間性等

の順に記載する



**体育学習
ハンドブック
(神奈川県立
体育センター
H25,3)より**

次に、単元目標の書き方です。学習指導要領解説には、観点別に四角で囲まれた箇所がありますが、その文章の語尾を変えて単元目標とします。【クリック】

単元目標 **どこを書くの？** **「解説」の知識及び技能の** **（スケ）**

（1）知識及び技能 **の関連個所を書き、語尾を変える** **※語尾は こと ⇒ 身に付ける**

球技について、

知識

（1）次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること **～を身に付ける。**

ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること **～を身に付ける。**

技能

イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連
きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。

ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。

例えば、高校の入学年度の球技のゴール型、バスケットボールでは、前半の知識に関する内容と、技能に関する説明文の語尾を「こと」から「身に付ける」に変えて単元の目標とします。【クリック】

単元目標(思考力、判断力、表現力等) (学びに向かう力、人間性等) (例:高 球技 バスケット)

(2) 思考力, 判断力, 表現力等

球技について, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 学びに向かう力, 人間性等

球技について, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (3) 球技に自主的に取り組むとともに, フェアなプレイを大切にしようとする
こと, 作戦などについての話し合いに貢献しようとする
こと, 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切に
しようとする
こと, 互いに助け合い教え合おうとする
こと
などや, 健康・安全を確保すること。

～を身に付ける。

～を身に付ける。

同じように、「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力、人間性等」も□の中の語尾を変えて単元目標とします。【クリック】

評価規準

単元の評価規準...

- ① 内容のまとまりごとの評価規準
- ② 学習活動に即した評価規準

**指導内容...全ての指導の観点に例示
が掲載してある。**

※例示に番号を付ける

次に評価規準ですが、単元の評価規準(内容のまとまりごとの評価規準)があります。単元の評価規準は単元目標の語尾を変えてもいいですし、国立教育政策研究所の内容を参考にします。内容のまとまりごとの評価規準は、観点別の例示を基に語尾を変えて作成されています。学習活動に即した評価規準は、指導日に指導する指導内容、または、単元計画の段階ごとの「例示」を参考にして、例示の語尾を変えて評価規準とします。【クリック】

単元の評価規準は、観点別の「単元目標」の語尾を変えればよい。

単元の評価規準及び学習活動に即した評価規準 (単元の評価規準…単元目標の語尾を変えて記載する)			
観点		思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	「知識及び技能」の単元目標の語尾を変える 「知識」は「～を理解している」 「技能」は「～ができる」	単元目標の語尾を変える 「～をしている」	単元目標の語尾を変える 「～をしている」

それぞれの観点別の単元目標の語尾を変えて単元の評価規準としてもいいです。ただ、新学習指導要領では、評価の観点の表記が変更されていますので、確認してください。特に、学びに向かう力、人間性等は、主体的に学習に取り組む態度に変わっています。【クリック】

単元の評価規準

高校2,3学年の現行指導要領新学習指導要領に準じた評価規準は？

「国立教育政策研究所の参考資料」を参照にして
「内容のまとまりごとの評価規準か
盛り込むべき事項」を
写してもよい

単元の評価規準、内容のまとまりごとの評価規準は、国立教育政策研究所を参考にしてください。高校2,3学年では、「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にしてください。【クリック】

単
元
の
評
価
規
準

(旧or新)学習指導要
領と同じ様に単元の評
価規準は、観点別の
「単元目標」の語尾を
変えればよい。

もし、評価規準がわからなければ

もし、国立教育政策所の参考資料が見られない場合は、「単元目標」の語尾を変えて評価規準としてもいいです。【[クリック](#)】

高校 新学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編 (陸上競技 入学年次)

(2) 思考力, 判断力, 表現力等 μ

陸上競技について, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。μ

(3) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み 方を工夫するとともに, 自己の考えたことを他者に伝えること **をしている。**

思考・判断・表現の評価規準

主体的に学習に取り組む態度

の評価規準

「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」については、語尾を「している」に変えて評価規準としてください。【クリック】

(例)高校 E 球技 ゴール型 バスケットボール 入学年次 知識

知識

<例示>

- 1 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術，作戦には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあること。
- 2 戦術や作戦に応じて，技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであること。
- 3 ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり，継続して行ったりすることで，結果として体力を高めることができること。
- 4 練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには，自己観察や他者観察などの方法があること。

～を理解している。

学習活動に即した評価規準の例としては、「知識及び技能」では、「知識」と「技能」の指導内容が別々に示されていますので、知識は、番号を付けた例示ごとに語尾を「～を理解している」にすれば、評価規準になります。「技能」は、語尾を「～ができる」にすればいいです。【クリック】

(例)高校 E 球技 ゴール型 バスケットボール 入学年次 技能 (安定したボール操作)

技能

安定したボール操作とは、ゴールの枠内にコントロールしてシュートを打ったり、味方が操作しやすいパスを送ったり、相手から奪われず次のプレイがしやすいようにボールをキープしたりすることである。

<例示>

- ① ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。
- ② 味方が操作しやすいパスを送ること。
- ③ 守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。

球技の「技能」の「安定したボール操作」では、3点が示されており、【クリック】

(例)高校 E 球技 ゴール型 バスケットボール 入学年次 技能 (空間を作りだすなどの動き)

空間を作りだすなどの動きとは、攻撃の際は、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動きを示している。また、守備の際は、相手の動きに対して、相手をマークして守る動きと所定の空間をカバーして守る動きのことである。

<例示>

- ④ ゴール前に広い空間を作りだすために、守備者を引きつけてゴールから離れること。
- ⑤ パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。
- ⑥ ボール保持者が進行できる空間を作りだすために、進行方向から離れること。
- ⑦ ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。
- ⑧ ゴール前の空いている場所をカバーすること。

技能

～ができる。

空間を作りだすなどの動きとして、5点示されているので、安定したボール操作に続けて番号を付けると、8つの指導内容があります。そして、語尾を「～ができる」とすれば、評価規準になります。「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」は、語尾を「～をしている」として評価規準とします。【クリック】

②学習活動に即した評価規準
その日に指導する内容の評価

または、その日の段階の評価

その日の段階の評価
単元計画...はじめの段階
なかの段階
終わりの段階

34

学習活動に即した評価規準のつくり方ですが、基本は、その日に指導する内容(指導内容)です。または、その日の段階の評価規準は、「はじめ」「なか」「おわり」の各段階で指導する内容が基本になります。【クリック】

	内容	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間
指導計画	知識	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	技能	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	思・判	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	学・人	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
評価計画		※1単位時間に指導や評価項目は、各々2つ以上入れない									
	知識	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	技能	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	思・判	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	主学	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

1～2 はじめ 3～4 なか① 5 ～ 7 なか② 8 ～ 10 おわり

各段階の指導内容、語尾を変えて評価規準

この表記は神奈川県の記事方法ですが、日体大で学習した記事方法では、指導計画と評価計画を縦書きにしています。ただ、単元計画の各段階で指導内容は異なりますが、基本は、指導計画でその日に指導する内容(例示等)の語尾を変えて、指導段階ごとの評価規準とします。【クリック】

指導と評価の計画(単元計画)(日体方式)

●指導と評価の計画 (12 時間扱い)		研究授業用体育③	
段階	時間	ねらい・学習活動	評価の観点 評価方法
はじめ		ねらい① ○前年度の学習を確認して、単元目標を立てよう。 ○学習の進め方と約束を確認しよう。	観点と観点別の 例示番号
	1	活動Ⅰ オリエンテーションを通して、学習の進め方を知る。 ・昨年度の学習内容を確認する。 ・学習のねらい、進め方、学習カードの使い方等を理解し、本単元の学習に見通しをもつ。	態度① 学習カード
	2	活動Ⅱ 基本的なボールの操作を復習する。 【ボール操作】パス、ドリブル、シュート、ピボット	態度③ 技能①③ 観察
		主な評価方法	
		ねらい② ○ボール操作と空間に走り込む動きなどを身に付けるための学習を通して、課題を見つけよう。 ○課題の解決に向けて、仲間と協力して練習するとともに、練習方法を工夫するなどして取り組むようにしよう。 ○チームの作戦や戦術などの話し合いに参加し、仲間とともにゲームを楽しめるようにしよう。	

これは、2021年度の「教育実習の手引き」に書かれている指導と評価の計画(単元計画)です。神奈川県方式を縦型にしたものと考えてください。ねらい①ねらい②が書かれていますが、各段階の主なねらいが書かれています。評価の観点は、観点と観点別例示の番号が書かれています。【クリック】

**学習活動に即した評価規準はどつするの？
(例:研究授業時の評価規準)**

**学習活動に即した
評価規準は、
本時に指導する
指導内容(例示)の
語尾を変えて記載**

観点別はその時間、または前後の指導内容

体づくり運動は「技能」の評価規準はなし

なお、体づくり運動は、できばえが目標ではないので、「技能」の評価規準は作成しません。【クリック】

「学習活動に即した評価規準」の作り方				
観 点 も	学習活動に即した評価規準 (評価規準…指導内容の語尾を変えて記載する)		思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
	知識	技能		
学	「知識」の 例示の語 尾を変える 「～を理解 している」	「技能」の 例示の語 尾を変える 「～ができ る」	例示の語尾 を変える 「～をしてい る」	「例示の語 尾を変える 「～をしてい る」

各観点の指導内容の語尾をこのように変えて「学習活動に即した評価規準」にしてください。【クリック】

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
知識					②	②	⑤	④		⑦			③	⑥	⑧					
技能		⑥	①		③				⑤				④				②			
思判	②	①				⑤					③	④								
学人								④						①	②			③		⑤

その日、5時間目の学習活動に即した評価規準

例えば、5時間目の学習活動に即した評価規準は、【[クリック](#)】



5時間目の評価規準は、「知識」は例示②の内容、「技能」は例示③の内容、「思考・判断・表現」はなし、「主体的に学習に取り組む態度」はなしとなります。しかし、4観点全てを書くように指示があった場合は、「思考・判断・表現」は例示①の内容、「主体的に学習に取り組む態度」は例示④の内容の語尾を変えて評価規準とします。【クリック】

	内容	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間
指導計画	知識		①			②		③	④		
	技能			①		④			②	③	
	思.判	①		②			③	④			
	学.人	①	②		③				④		
評価				※1単位							

知識
②③

技能
④

思判
③④

主学
なし

1～2
はじめ
3～4
なか①
5～7
なか②
8～10
おわり

各段階の指導内容、語尾を変えて評価規準

学習活動に即した評価

また、赤字の「なか②」の5～7時間目の段階の評価規準は、そこで指導する予定の指導内容、「知識」は例示②と③の内容、「技能」は例示④の内容、「思考・判断・表現」は例示③と④の内容の語尾を変えて評価規準とします。「主体的に学習に取り組む態度」は計画していないのでありません。【クリック】

＜評価方法＞

☆**観察法**:教師が学習活動から生徒の様相を見て取る

※関心・意欲は**態度**になって表れる

☆**学習カード**:記述欄から(内面を表面化させて)見る

※「評価資料」の観点から、「**学習カード**」の重要性は高い

☆**技能テスト**(スキルテスト)

☆**その他**:面接、質問紙、作品、ノート、レポートなど

なお、評価方法はこの4点になると思いますが、主な評価方法は、観察法と学習カードが中心のようです。【クリック】



お疲れ様でした。教員採用試験の二次試験対策は、6月にホームページにアップします。【クリック】